



## 2学期がスタートしました

約5週間の夏休みも、あっという間に終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。夏休みの間、各家庭でさまざまな経験をして、ひとまわり大きくなったという感じがします。保護者や地域の皆様にもいろいろご協力をいただき、子どもたちにとって充実した夏休みになったことでしょう。ありがとうございました。



夏休みに入って5日間行った、水泳の充実指導では、5・6年生の子どもたちが、25m完泳をめざしてがんばりました。参加したほとんどの子どもたちが初日より遠くまで泳げるようになりました。

また、7月29日に港区の大阪プールで行われた「大阪市児童水泳記録会」には、本校から7名の子どもたちが参加しました。学校のプールとは比べものにならない大きさの50m・10コースあるプールで、子どもたち全員が力いっぱい泳いでいました。

7月31日には、「イングリッシュ・デイ」が、北区の中之島小中一貫校で開かれ、5・6年生15名が参加しました。C-NETの先生方や他校の子どもたちと英語でコミュニケーションをとりながら、ゲームやダンスなどを楽しみ、オール・イングリッシュの貴重な経験をしました。



7月19日、20日には、野田恵美須神社の夏祭りのだんじりに参加した子どもたちもいました。元気のよいかげ声をひびかせながら、町中をだんじりと一緒にねり歩きました。昔から続くお祭りの伝統を、しっかりと受け継いでほしいです。



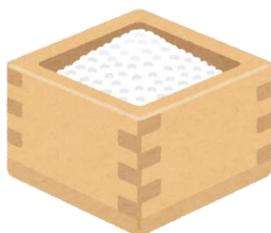
夏休み中も、いろいろなことで、野田小学校の子どもたちががんばりや活躍を見せてくれました。

いよいよ今日から新学期が始まります。2学期は、遠足や社会見学、作品展、5年生の自然体験学習や6年生の修学旅行など、さまざまな学校行事があります。心と体を「学校モード」に切り替え、毎日の生活リズムを整えて、体調に気を付けて過ごしてほしいものです。

さて、江戸時代の儒学者である新井白石のエピソードに「一つぶの米」があります。白石は、徳川将軍に仕えて、大きな仕事をした人です。しかし、最初から優秀な人物だったわけではありません。子どもの時は、勉強が好きではなく、朝から晩まで友達と遊びまわっていたそうです。それを見た父親が白石にこんな話をしました。

(裏面に続く)

(表面より)



米びつから、一つぶの米をとっても、米が減ったかどうかはわからない。けれども、1年、2年、そして3年と毎日一つぶずつ取っていくと、減ったことが分かる。反対に、米びつに一つぶの米を入れても、増えたかどうかはわからない。けれども、1年、2年、3年と毎日一つぶずつ入れていくと、増えたことがわかる。

勉強や習い事も同じだ。1日だけ勉強したり練習したりしても、すぐにかしこくなったり、上手になったりすることはない。反対に1日怠けたからといって、次の日に、すぐにわからなかったり、下手になったりするわけではない。

けれども毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、1年後や2年後には、勉強がわかるようになり、習い事が上手になったりしたこともわかる。毎日怠けていると、気が付いたときには勉強もわからなくなり、習い事も下手になってしまっているものだ。

これを聞いた新井白石は、一つぶの米を机の上にお守りとしていつも置いておき、怠けようという心が起きたとき、その米つぶを見て自分を励ましたそうです。

この話は、52年間にわたり中学・高校の教壇に立ち続けた教師であり、戦後の国語教育の基礎を築いた国語学者でもある大村はまさんの「心のパン屋さん」という本に掲載されている話の一部です。大村さんに「先生、何日ぐらいさぼると、あっと思うんだろうか」と質問した生徒がいました。大村さんは、その生徒に「10日の人も20日の人も1年の人もいるでしょうけど、いろんないい仕事、いい技を仕上げた人は、1日休むとそれだけどうしても落ちると、みんな言われる。一つぶだからいいとも言えるけど、一つぶでも減ったことは減ったと言えるのでね。」と話をされたそうです。

9月に入ると季節は「秋」。秋は学習に運動に最適な季節です。得意な学習を伸ばす、苦手な学習を克服する、本を読む、スポーツの練習をする、家の仕事を決めて続ける、規則正しい生活をするなど、毎日の積み重ねを大事にし、「一つぶの米」のように何か続けられることを見つけてほしいものです。何か1つでも2学期の最後まで続けることができれば、必ず得るものがあります。これらの経験が学校生活をさらに充実させるきっかけや原動力になることでしょう。



## のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。随時更新していますので、ぜひご覧ください。

### 【野田恵美須神社だんじり曳行】7月19日(土)・20日(日)

野田恵美須神社の夏祭りにもなってだんじりが出され、野田やその周辺の町を曳行しました。本校の子どもたちも参加し、元気のよいかけ声をひびかせながら、町中をだんじりと一緒にねり歩きました。このだんじりは、とても立派で細やかな木彫りで飾られています。子どもたちには、先人から受け継いだ伝統を、しっかりと未来へつないでほしいです。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。